

30 「高地先生」

高校一年の時の地理の先生である。

そのとき高地先生はまだ若く、熱く地理の授業をしてくれたことが記憶に残っている。地理は好きな科目だったので、興味深く授業を受けた。

2,007年8月15日に行われた、木更津高校第19回卒業生の同窓会のとき、本当に久しぶりに先生にお会いした。一体何年ぶりだろう？高校卒業以来だから、40数年ぶりということになる。

同窓会のとき、先生は用事があるということで途中で帰られた。

たまたま玄関付近で、迎えの車を待っているとき、5,6分先生と話しをすることができた。

私は地理が好きで、とても楽しく熱心に授業を聴いたこと。先生の授業で特に印象に残っているのは、“ピリトン、ピンタン、パンカ”というアンダマン海に浮かぶ3つの島で、錫やボーキサイトの採れるインドネシアの鉱山の授業のときだったことなどを話した。何故そんなに印象に残っているのか思い出せないが、多分先生がとても熱をこめて授業をしてくれたからだろう。地理学により興味を持つようになったのは先生のお陰だとも思う。

それから1ヶ月と少し経った。

そのころ、時々遠距離サイクリングをしていて、2,007年9月24日は太東岬に行った。特に理由があるわけではないが、岬というのは何となく人を惹きつけるし、灯台から太平洋を見たらいい眺めだろうと思ったからだ。

太東岬は千葉県夷隅市にあり、銚子の犬吠崎には及ばないが、房総半島の中央部では最も東に突き出している。

家を出て県道13号を東に進み、長柄町、長南町から茂原、そこから国道128号に入り南東方向に進む。アップダウンのない平坦な道路だから、走るのは大変ではないが大型車に注意しなければならない。

上総一ノ宮から東浪見を過ぎ、岬町に入ると海が見えはじめしばらく海岸線の外房黒潮ラインを走る。一旦内陸に入り、こぶのように海側に迫り出している高台を大きく迂回すると、太東岬への上り口。自転車にはキツイ上り坂がありやっと灯台に辿り着いた。だいたい家から50kmくらいだろう。

灯台は正式には、太東埼灯台というようだ。地上高さ16m足らずの塔で、銚子海上保安部が管理している。灯台登り口にはチェーンが張られていて、残念ながら上に登ることはできなかった。

小さくて人が登って自由に動きがとれるような灯台ではない。猫の額ほどの広さの展望台から眺めると、見渡す限りの大海原で地球が球形であることが感じられる。南側はなだらかな弧を描いて美しい海岸線が見える。



岬から南を臨む

景色を楽しんで写真を撮ったので帰ろう。

帰りはなぜか向かい風のことが多いのでより体力を使う。そんな中、50kmの道を戻らなくてはなら

ない。

国道128号に戻るのに、途中で方向を見失いなかなか国道に入れない。余分な体力を使いたくないので誰かに道を教えてもらおうとゆっくり走っていると、道路に出て垣根を修理している人を見つけた。その人に、「国道に出たいのですけど」と訊ねると親切に教えてくれた。

その時は気付かなかったのだが、数分走ってから、ふとさっき道を訊いた人、もしや……？「高地先生に似ていなかったか？」。しかし、まさか……そんなことあるはずがない。でも似ていた、、、。他人のそら似ということもあるし、、、。そんな、偶然すぎる、、、。ありえない。

だいたい高地先生がどこに住んでいるのかも全く知らないのだ。

帰り道はやはり向かい風だった。

海岸通りの飯岡一宮線を真っ直ぐ北上する。一宮荘“芥川龍之介愛の碑”を過ぎたところで左折し、西に進み再び128号に合流する。

できるだけ来た道と違う道を走りたいので、茂原の中心部を過ぎ上茂原あたりから南側の国道409号線に入る。笠森観音、牛久と過ぎ立野を通過して夕方家に着いた。

走行距離102.4km、往復6時間近く走った。1日100キロ近く走るとやはり疲れる。

夜になって思い出した。同窓会の幹事に電話して、高地先生の電話番号を教えてもらい早速電話してみた。その日は本人が不在で、翌日再び電話した。

『昨日午後2時ごろ、道を訊ねた者です。実は先日の同窓会で懐かしい話をさせていただいた“高山”ですが、、、。』すると、『ああ、、、あの時の、、、』先生は覚えていてくれた。

やはり、高地先生に間違いなかったのだ。その時は、僕がヘルメットをしていたこともあって先生はわからなかったという。先生もとても驚いていた。

しかし、こんなにも奇跡に近い偶然というものもあるのだ。本当に驚いた。

たまたまこの日、姉ヶ崎からサイクリングで50キロも離れた太東埼灯台に行き、帰りにあの場所で道に迷った。そこで、たまたま道を訊ねた人が自分の高校の地理の先生だった。先生は偶然その日、その時刻に道路に出て、自分の家の垣根を修理していたのだ。（2011.11.06）